

平成21年度 日本自転車振興会競輪補助事業完了のお知らせ

この度、日本自転車振興会から平成21年度競輪助成金の交付を受け、先の事業を完了致しました。

ここに事業完了のご報告を申し上げますとともに、日本自転車振興会を始め、ご協力賜りました関係各位に謹んで感謝の意を表します。

一、事業名	平成21年度障害者のスポーツの振興補助事業
一、総事業費	34,256,103円
一、補助金額	25,622,000円
一、実施場所	東京都中央区日本橋人形町2丁目 14番9号 三星ビル内 財団法人日本障害者スポーツ協会
一、完了年月日	平成21年10月12日

財団法人日本障害者スポーツ協会
会長 北郷 勲夫

概要

1.第9回全国障害者スポーツ大会

期日	平成 21 年 10 月 10 日～12 日
場所	新潟市、長岡市、新発田市、燕市の各会場
参加人数	選手 約3,500人 役員 約2,000人 計5,500人 ボランティア 延べ約7,000人 一般観覧者 延べ約8万4千人
実施競技	正式競技 13 オープン競技 3 (車いすダンス、車椅子ツインバスケットボール、フロアホッケー)

2.第 9回全国障害者スポーツ大会予選会(全国6～7地区)

①聴覚障害者バレーボール競技

全国を 6 地区 に分け、平成 21 年 5 月 16 日から 6 月 28 日までの間、予選を行い、次のとおり出場チームを決定した。

地区	男子	女子
北海道・東北	札幌市	札幌市
関東	東京都	神奈川県
北信越・東海	愛知県	静岡県
近畿	大阪市	大阪市
中国・四国	山口県	岡山県
九州・沖縄	福岡県	沖縄県

②グランドソフトボール競技

全国を 7 地区に分け、平成 21 年 5 月 17 日から 6 月 14 日までの間予選を行い、次のとおり出場チームを決定した。

地区	出場チーム
北海道・東北	仙台市
関東	埼玉県
北信越	愛知県

東海	三重県
近畿	大阪府
中国・四国	徳島県
九州・沖縄	福岡県

③車椅子バスケットボール競技

全国を6地区に分け、平成21年5月10日から6月14日までの間予選を行い、次のとおり出場チームを決定した。

地区	出場チーム
北海道・東北	仙台市
関東地区1(東京都)	NO EXCUSE
関東地区2	千葉県
北信越・東海	愛知県
近畿	神戸市
中国・四国	岡山県
九州・沖縄	大分県

④知的障害者バスケットボール競技

全国を6地区に分け、平成21年4月11日から6月21日までの間予選を行い、次のとおり出場チームを決定した。

地区	男子	女子
北海道・東北	秋田県	秋田県
関東	東京都	東京都
中部・北陸	長野県	長野県
近畿	大阪市	大阪市
中国・四国	高知県	島根県
九州・沖縄	福岡県	—

⑤知的障害者バレーボール競技

全国を6地区に分け、平成20年4月13日から6月7日までの間予選を行い、次のとおり出場チームを決定した。

地区	男子	女子
北海道・東北	宮城県	宮城県

関東	東京都	東京都
中部・北陸	岐阜県	岐阜県
近畿	兵庫県	兵庫県
中国・四国	山口県	高知県
九州・沖縄	宮崎県	福岡県

⑥知的障害者サッカー競技

全国を6地区に分け、平成21年4月5日から5月31日までの間予選を行い、次のとおり出場チームを決定した。

地区	出場チーム
北海道・東北	札幌市
関東	茨城県
中部・北陸	静岡県
近畿	大阪府
中国・四国	島根県
九州・沖縄	長崎県

⑦知的障害者ソフトボール競技

全国を7地区に分け、平成21年6月7日から6月28日までの間予選を行い、次のとおり出場チームを決定した。

地区	出場チーム
北海道・東北	宮城県
関東	東京都
北信越・東海	富山県
近畿	神戸市
中国・四国	岡山県
九州・沖縄	福岡市

⑧知的障害者フットベースボール競技

全国を6地区に分け、平成21年4月20日から6月8日までの間予選を行い、次のとおり出場チームを決定した。

地区	出場チーム
北海道・東北	岩手県

関東	東京都
中部・北陸	静岡県
近畿	神戸市
中国・四国	高知県
九州・沖縄	熊本県

⑨精神障害者バレーボール競技

全国を6地区に分け、平成21年5月30日から6月7日までの間、予選を行い、次のとおり出場チームを決定した。

地区	男子
北海道・東北	青森県
関東	横浜市
北信越・東海	長野県
近畿	静岡県
中国・四国	兵庫県
九州・沖縄	佐賀県

3.第38回日本車椅子バスケットボール選手権大会

期間	平成21年5月4日～6日
場所	東京体育館
参加チーム	20チーム 優勝:宮城MAX(宮城県)
参加人数	選手700人 役員・ボランティア750人
観客数	5,200人

4.日本障害者自転車競技大会

■トラックレース	
期日	平成21年5月16日
場所	日本サイクルスポーツセンター(静岡県伊豆市)
参加人数	選手9人 役員25人
■ロードレース	

期日	平成 21 年 6 月 7 日
場所	小田倉台上周回コース(福島県西白河郡西郷村)
参加人数	選手 18 人 役員 30 人

5.国際盲人マラソン大会

期日	平成 21 年 4 月 19 日
場所	土浦市川口運動公園陸上競技場、霞ヶ浦湖畔
加人数	一般選手約 24,000 人 視覚障害選手 186 人 ボランティア 3,500 人以上

成 果

第 9 回全国障害者スポーツ大会

「トキめき新潟国体・トキめき新潟大会」のテーマと「トキはなて 君の力を 大空へ」「伝えよう 感謝の 気持ちを トキめきを」をスローガンとし、新潟県の新潟市、長岡市、新発田市、燕市を会場とし開催された。

スポーツの楽しさと感動を通して、障害のある人もない人もお互いの個性を尊重し、支えあいながら共に生きることのすばらしさを実感できる大会をめざして開催し、3日間で延べやく9万人が参加し、各種ボランティアも当初計画を大幅に上回る参加があった。

第 9 回全国障害者スポーツ大会予選(全国 6 地区～7地区)

予選は団体競技で、全国大会出場のため9競技12種目の地区予選を全国6～7地区において実施された。身体障害者の競技では車椅子バスケットボール、グランドソフトボール、バレーボール男子・女子を行い、知的障害者の競技では、サッカー、バスケットボール男子・女子、サッカー、フットベースボールを行い、昨年度から新たに加わった精神障害者の競技では、バレーボールの競技を行った。

第 38 回日本車椅子バスケットボール選手権大会

平成21年3月末までに10ブロックの予選会で勝ち上がった20チーム(初出場2チーム)が3月に行われた全国評議会で公平

に抽選にて決定された組み合わせによりトーナメント戦を行い日本一のチームを決するという目標で、10ブロックの予選会を開催できた。

日本障害者自転車競技大会

障害者スポーツの一つとしての自転車競技の発展、競技者の拡大を図るとともに、一般の自転車競技者との交流などにより、選手の発掘、技術の向上につなげることができた。さらに、ポスターや横断幕に補助事業であることを明記したもので、競輪の収益が公共の福祉に活用されていることも広く知らせることができた。

国際盲人マラソン大会

第19回かすみがうらマラソン大会兼国際盲人マラソン大会は、過去最高となる2万4千人を超える参加ランナー、盲人ランナーも世界から186人を集めこの大会として過去最高を記録した。

今後期待される効果

第9回全国障害者スポーツ大会

障害者の社会参加の推進と障害に対する理解を深めることに繋がり、今後は予想を上回る活動があった各種ボランティアを広く浸透させることで、障害者スポーツの普及・向上と障害者スポーツの普及・向上と障害に対する理解をいっそう深まることが予想される。

第9回全国障害者スポーツ大会予選

第9回全国障害者スポーツ大会予選会は団体競技については必須である。新人の発掘、演技力の向上、競技団体の組織力アップ、また障害者そのものの宣伝と障害者のスポーツの宣伝につながっている。

第38回日本車椅子バスケットボール選手権大会

障害者のスポーツで最も歴史のある車椅子バスケットボールの国内最大の大会である。今回は第38回目の大会となる。会場が代々木にある東京体育館という場所から障害者のスポーツと見て頂く絶好の場所でもある。

日本障害者自転車競技大会

この大会は、自転車競技の中で障害者が参加できる唯一の障害者自転車競技大会である。昨年の北京パラリンピック大会の成績は金1、銀3、銅2、その他入賞4というメダルラッシュで、全選手が入賞を果たすことが出来た。今後も引き続きこの大会を行うことによって、競技力を向上させ選手の自転車競技レベルを引上げるによりさらに好記録が期待される。

国際盲人マラソン大会

第19回かすみがうらマラソン大会(兼)国際盲人マラソン大会は、国内外から2万人を超える参加ランナーを得て盛大に開催された。本大会の成功が視覚障害者の受入れを促し、多くの機会を提供することにつながる。

本事業により作成した印刷物

(1)日本車椅子バスケットボール選手権大会	ポスター	14,000部
	チラシ	9,000部
	フライヤー(1・2)	1 3,000部
	プログラム	2,500部
	報告書	900部

各配布先は以下のとおり

・協力企業	200部
・チーム広告協力企業	40部
・内部関係者	165部
・協賛会員	300部
・ボランティア	65部
・OB会	100部
・予備	30部
	(計 900部)

(2)日本障害者自転車競技大会	ポスター	200部
	プログラム	400部
	報告書	200部

報告書の配布先は以下のとおり

・各都道府県・指定都市障害福祉主管課	60部
・各県障害者スポーツ協会	70部
・選手	20部
・大会関係者	10部
・その他	(計 200部)